

## (8-Ⅱ) 一般機械工業（金属工作機械）

18/17 19/18 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%  
：天気図マーク； ◎ ◎ ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

### 1. 企業経営動向（需要、生産・設備稼働、企業収益、財務）

#### (1) 需要

平成18年の受注額（出典：（社）日本工作機械工業会統計）は1兆4,370億円、対前年比5.4%増と史上最高となる受注額となった。内需については、一般機械や鉄鋼、造船向けなどを中心に堅調に推移した一方、自動車向けが伸び悩んだことから、7,330億円、対前年比1.8%減と微減となった。外需については、欧州、北米向けが大幅に増加した他、アジア向けも5年ぶりにマイナスとなったものの、昨年に次ぐ史上2番目の受注額を記録したため、7,040億円、対前年比14.2%増と3年連続最高額の更新となった。

#### (2) 生産・在庫

平成18年の生産額（出典：経済産業省生産動態統計）については、受注の増加基調を受け、1兆2,110億円と対前年比9.1%増と4年連続の増加となった。

在庫（年末在庫）（出典：経済産業省生産動態統計）は、生産台数の増加に伴い、対前年比64.4%増となった。

#### (3) 企業収益

平成17年度は、受注が大幅に増加したため、多くの企業で増収となり、黒字決算となった。

（社）日本工作機械工業会調査の「工作機械工業経営状況調査－2006年度上期－」によると、調査対象23社の連結売上高は前年同期比30.6%増となり、営業利益は33.3%増、経常利益は33.7%増、当期利益は27.8%増となった。

### 2. 設備投資動向（18年度見込み、19年度計画）（グラフ1参照）

#### (1) 平成18年度実績見込み

平成18年度実績見込みは、共通回答企業13社合計で284億円となった。これは27億円であった平成17年度実績に比べ25.2%増である。

目的別では、生産能力増強投資（54.6%）及び合理化・省力化投資（20.8%）のウェイトが高くなっている。

#### (2) 平成19年度計画

平成19年度計画は、共通回答企業13社合計で338億円と計画されている。これは284億円であった平成18年度実績見込みに比べ19.1%増である。

目的別では、生産能力増強投資、合理化・省力化投資、研究開発投資が依然として大きなウェイトを占めている他、更新・維持投資のウェイトが高まっている。

### 3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

#### (1) 長期資金運用動向

平成18年度は平成17年度に比べ、設備投資資金が対前年比13.1%増と増加したが、短期資金への振替は減少している。

平成19年度計画は平成18年度に比べ、設備投資資金が減少する一方、投融資額、短期資金への振替は増加する見込みとなっている。

#### (2) 長期資金調達動向

平成18年度は借入金が増える一方で内部資金は大幅に増加する見込みとなっている。

平成19年度計画は平成18年度に比べ、借入金が増える一方、内部資金は減少する見込みとなっている。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

